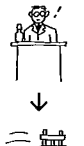
講

五年

画数 17
筆順 言 講 講 講
オン コウ
クン

成り立ち



材木を組み合わせ、組み立てた形の〝冓〟と、〝言〟とを組み合わせて作った字です。

「言葉を〝組み立てる〟」という意味の字で「組み立てられた語（説明）」のことを表した字です。例講話、講義。

「聞く人たちによくわかるように考えて話を組み立てること」ですから、「よく考えて適切な処置を行う」という意味にも使います。例災害にさいしての対策を講じなければならない。

また、「仲よくする」という意味にも使います。例講和（戦争を止めて講和条約を結びました）。

〔講和は、元は〝媾和〟である。〝媾〟が常用漢字表にないために、〝講〟で代用した。〕

使い方

▽ぼくのおとうさんは、講談が大好きで色々な話を知っています。おとうさんの子供の頃には、講談が大そうはやっていたそうです。

▽長い間戦争を続けていた、イラン・イラク戦争が、ようやく講和する運びになりました。一日も早く、世界中が平和になることを、皆で、心から祈りましょう。

熟語例

▽講話（わかりやすく説明してきかせること。また、その話）

▽講義（学問的な事を説明してきかせること。とくに大学での授業のことを言います。）

▽講釈（「講談」とも言って、武勇伝や人情話などを、独特の節をつけて話す演芸のことです。また、文章や言葉の意味を説明することをも言います。「あの人の講釈は長くなるから困る」などと、つかいます。）

▽講談（「講釈」のことです。「講談」の方が新しい呼び方です。）

▽講習（学問や技術について習うこと。「編物の講習会に出席した」などというふうに、つかいます。）

混

五年

画数 11
筆順 氵 混 混 混
オン コン
クン まじる まぜる

成り立ち

日中、人々が歩いているすがたを表した〝昆〟と、川の形を表した〝氵〟とを組み合わせて作った字です。

日中は人々が出歩いて、人々が入りまじり、〝混雑〟する時ですから、〝昆〟は〝入りまじる〟という意味を表しています。それで、〝混〟は、「川の水が入りまじる」ことを表したものですが、〝川の水〟に関係なく、「人や物が〝入りまじる〟」意味に使われています。

使い方

▽井戸の水の中には、いろいろな物質が混じっていてそれがその水の味となっています。おいしい水もあれば、まずい水もあるわけです。

▽赤い水と青い水が混ざって、紫色になりました。青い水と黄色い水を混ぜたら、緑色になりました。

熟語例

▽混雑（雑（5年723）も〝混じる〟こと。「人がこみ合う」意味に使われます。〝入り混じる〟と言う意味のことばですが、「ごたごたする」感じの時に使われます。例駅の前が混雑しています。）

▽混合（混じり合うこと。また、混ぜ合わせること。）

▽混生（混じり合って生えること。例畑の野菜の中に雑草が混生している。）

▽混同（混じり合って区別がつかなくなり、同じにあつかうこと。また、「区別をつけない」という意味にも使います。例公私混同）

▽混乱（入り乱れて、秩序がなくなること。例大地震で人々は混乱状態におちいりました。）